

中頓別町環境基本計画資料編

1, 地理的条件

2, 気象

3, 自然

4, 人口・歴史・産業・周辺とのつながり

5, 暮らしと環境

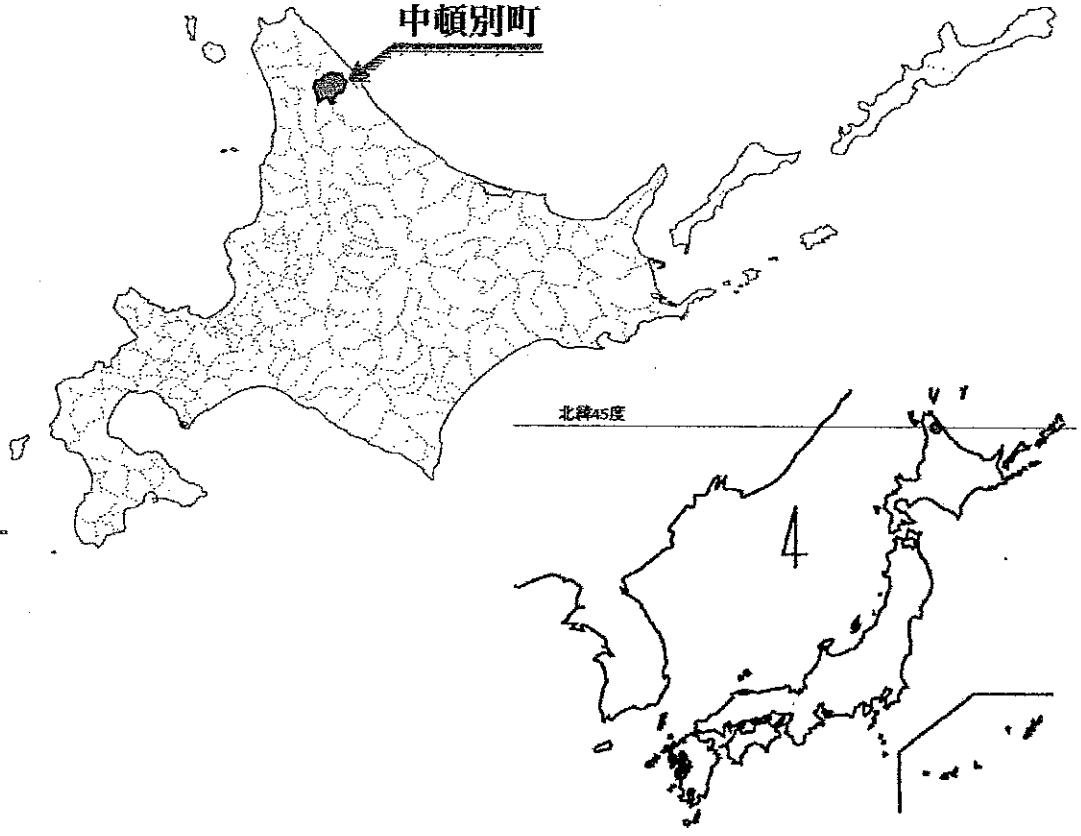
6, 中頓別町環境調査報告書

1. 地理的条件

(1) 位置＝北緯45度の町

南北に長い日本の最も北にある宗谷地方の一角を占め、北緯44度44分～45度01分、東経142度07分～26分に位置する東西24.295Km、南北28.232Km、面積が398.55Km²の町である。

世界を見渡すと、北アメリカでは札幌の姉妹都市アメリカのポートランド（北緯45度36分）、東海岸のカナダ・ケベック（北緯45度28分）、大西洋を渡り、ワインで有名なフランス・ボルドー（北緯44度50分）、イタリア・ミラノ（北緯45度35分）、さらにはカスピ海の上部、モンゴル高原や中国ハルビンがほぼ同緯度である。



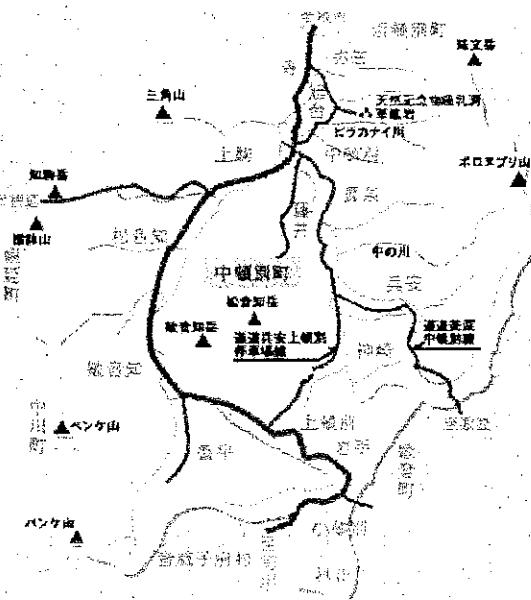
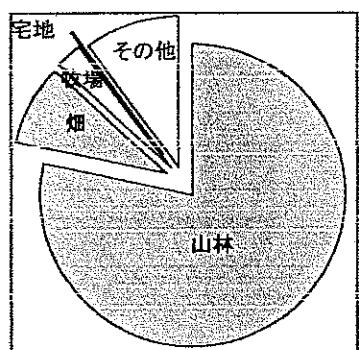
(2) 地形と土地利用

敏音知岳（標高704m）に位置し、北西部は標高500m前後の北見山脈、東部はポロ又ブリ岳（838m）をはじめとする山々に囲まれている。町域の南端から北へ頓別川が、東端から西へその支流であるペーチャン川が流れ、両河川の合流地点で平坦部（中頓別市街地）を形成してから北上してオホーツク海へと注がれている。山々から多くの支流が頓別川へと合流しており、その周辺は丘陵地帯が形成され、多くは畠として利用されている。

8割が山林となっている。総面積398.55Km²のうち山林 312.7Km² (78.5%)、

畠34.1Km² (8.6%) に対して宅地は1.2Km² (0.3%) にすぎない。なお、山林のうち約9割は国有林となっている。

中頓別の地勢の特徴をまとめると、日本の最北部・北緯45度線上にあり、北見山地の最北部からオホーツク海に流れる頓別川水系の上流域に位置し、分水嶺に囲まれた森林の町ということが言える。



土地利用の状況（平成21年固定資産税概要調査）単位：Km²

山林	畑	牧場	宅地	原野	雑種地	その他
312.73	34.14	11.50	1.20	15.40	11.31	12.72

(3) 周辺とのつながり

頓別川の西側の分水嶺をなしている山々は北見山地の末端部分とみなせるパンケ山、パンケ山である。北見山地を南下すると、函岳(1,129m)、ピヤシリ山(989m)、ウエンシリ岳(1,142m)、天塩岳(1,558m)と続き、石北峠を経て石狩山地、大雪山塊へと連なっている。地質は古生層、中生層を基盤に第三紀の地層が重なった山地である。中頓別以北の北見山地は宗谷丘陵となる。

頓別川の下流は頓別平野と呼ばれ、現在でもクッチャロ湖があるように、かつては湿原地域が広がっていた。

現在、中頓別に来訪する際に利用する国道40号とJR宗谷本線は天塩川に沿って敷設されている。天塩川は天塩岳を源流部とする日本海に注ぐ全長256km、日本で4番目に長い一級河川で、天塩川水系の本流である。しかし、大きな支流が少ないため、流域面積は5,590km²で10番目にとどまっている。河口部は天塩平野と広大なサロベツ湿原を形成している。

中種別の山 敏音知岳 704m 松音知岳 523m

ポロヌプリ岳	838m	知駒岳	532m
ペンケ山	716m	パンケ山	631m

参考：宗谷と周辺の主な山

利尻山（利尻町、利尻富士町）	1, 721m
幌尻山（浜頓別町、豊富町）	427m
珠文岳（浜頓別町）	761m
イソサンヌプリ山（幌延町、浜頓別町）	581m
歌登山（枝幸町）	572m
屋根棟山（枝幸町、音威子府村）	1, 039m
函岳（枝幸町、美深町、音威子府村）	1, 129m
加須美岳（美深町）	913m
ピヤシリ岳（枝幸町、名寄市、下川町）	986m

参考：北海道の主な山の高さ

旭岳	2, 290m
トムラウシ山	2, 142m
羊蹄山	1, 898m

中頓別の川 頓別川 長さ 74 km 流域面積 779?

参考：北海道の3大河川

石狩川	長さ 268 km	流域面積 14, 330?
十勝川	長さ 156 km	流域面積 9, 010?
天塩川	長さ 256 km	流域面積 5, 590?

◆大地の形成

世界の陸地形成は、プレート・テクトニクス(plate tectonics)理論（注1）で説明されている。地球は厚さ10-200kmもある複数の剛体の板（岩盤）・プレートでその内部が覆われている。それらはマントルの対流によりわずかずつ移動し、それに伴い地表の陸地が移動し、場所によっては衝突し、一方が他方の下に沈み込んでいる。その影響が地表面に現れ造山運動などの現象を引き起こすと考えられている。

日本列島は、地球を覆っている十数枚のプレートのうち4枚のプレートの衝突部にあって、世界的にも活発なサブダクションゾーンのフロントに位置している。この列島は北米プレートとユーラシアプレートの2つの大陸地殻にまたがり、さらに太平洋プレートあるいはフィリピン海プレートの沈み込みによって2方向から強く圧縮されている。

最近注目され始めた房総沖と伊豆半島付近の2ヶ所のトリプルジャンクションの存在は4つのプレートがぶつかり、せめぎ合う場として世界に類例がなく、日本列島がいかに複雑な応力場に支配されているかを示している。

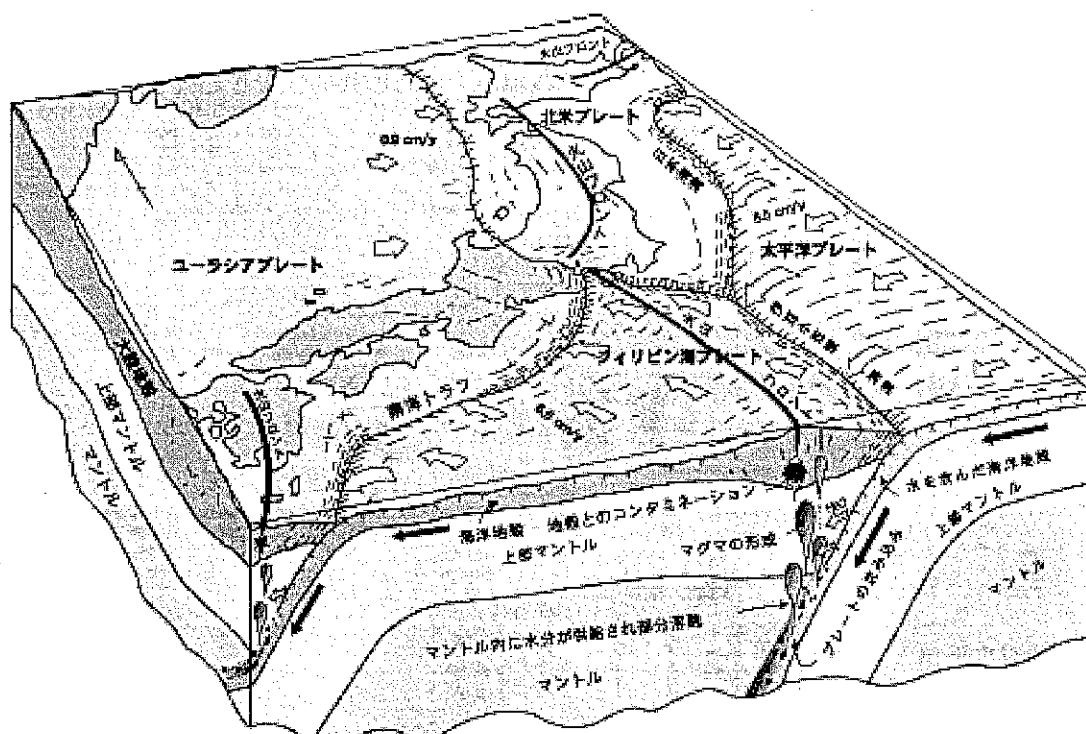
マグニチュード7以上の地震は世界中でこの90年間に900回ほど起きているが、そのう

ち10%もの地震が日本で起きている。マグニチュード8クラスの巨大地震も日本海溝や南海トラフといったサブダクションゾーンに集中し、ここでのプレートの衝突がいかに激しいかがわかる。

さらに太平洋プレートの日本列島下への活発な沈み込みは、日本列島を世界でも有数な火山列島にしている。

このような日本近海のプレート運動は、島弧に強い歪みを与え世界でも有数の地震多発帯、火山活動多発帯といった自然災害の場を形成し、また地殻の上昇も加わって、非常に脆弱な地盤をもつ日本列島を作り上げている。

プレートテクトニクスからみた日本



～大陸衝突のドラマ～

アンモナイトが白亜紀の海を泳いでいた頃(およそ1億4000万年前～6500万年前頃)、私たちの住む北海道のある北半球東北部にはまだ広々とした海が広がっていた。北東方面には北米大陸の一部の古オホーツク大陸の一部が姿を見せ、西の方にはユーラシア大陸が大きく広がり、ユーラシア大陸の東縁には後に本州や北海道の南西部になる大陸のかけらが南北にしがみつくようにぶら下がり日本海はまだ存在していない。この二つの大陸に下から向き合うような形で、南太平洋のあたりには古太平洋プレートと呼ばれる海洋地殻が広がっていた。

これが今から二億年前、ジュラ紀から白亜紀にかけての東アジアの姿だったらしい。これらの大陸もまた海洋プレートと同じように厚い大陸プレートに乗って年間数センチ、人間の爪が伸びるような早さでゆっくりと移動していた。

約1億4500万年前の白亜紀に入った頃、北上を続けていた古太平洋プレートが角度を

西に変えユーラシア大陸の北東縁に衝突した。ユーラシア大陸の東縁には海溝が日本からサハリンにかけて南北に連なっており、古太平洋プレートはやがてこの海構に飲みこまれるようにユーラシア・プレートの地下20キロメートルもの地殻深く沈みこんでしまう。その際、古太平洋プレートの上の厚さ何千メートルもの海洋堆積物は大陸の縁に削り取られるような形で取り残され、陸上から流れ込んだ生成物とともに付加体（注1）となって地層を形成する。これが北海道の中央部を南北に貫く白亜紀層で、道内では一般的に空知層から蝦夷累層群、函縁層などと呼ばれる地層である。どうやらこれが私たちのふるさと中頓別の大地の生まれ落ちた時の姿らしい。

その後今から3000万年前～1500万年前にかけ北大西洋では海が狭まり北アメリカの一部のオホーツク古陸がユーラシア大陸の方に押し付けられ2つの大陸が衝突した頃、日本海が開いてユーラシア大陸の北東縁が離脱し、オホーツク海が広がって北海道・サハリンの骨格がようやく姿を現す。その痕跡は今も道北からサハリンに通じていくつもの断層となってはっきり残っている。衝突の角度から見てこの時生まれたのが頓別原野の南に連なる北見山地だろうと言われている。つまり海洋プレートの衝突、沈み込みというそんな途方もない2つの壮大な現象がこの頓別地方を舞台にして展開されたのである。軍艦岩と鍾乳洞を生んだ貝殻石灰層もこの時期に深い海底から地上に姿を見せることになったのだろうと推測されている。

◆地層

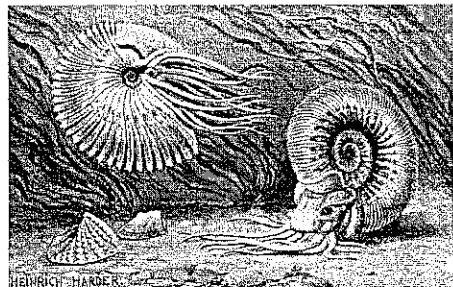
中頓別町周辺には、ジュラ紀以降の地質が分布している。中頓別鍾乳洞付近では、輝緑岩、スピライト、シルト岩、頁岩などからなる後期ジュラ紀日高累層群、後期白亜紀上部蝦夷層群を基盤としている。その上に中新世の貝化石を含む3層に分けられる厚さ60mほどの中頓別層があり、長い歴史の環境に影響を受け、各層が不整合に入り組んで露頭している。また丘陵地帯では、さらに新しい第四紀の段丘堆積物の地層が最大20mほどの深さとなり覆っている。

◆アンモナイト

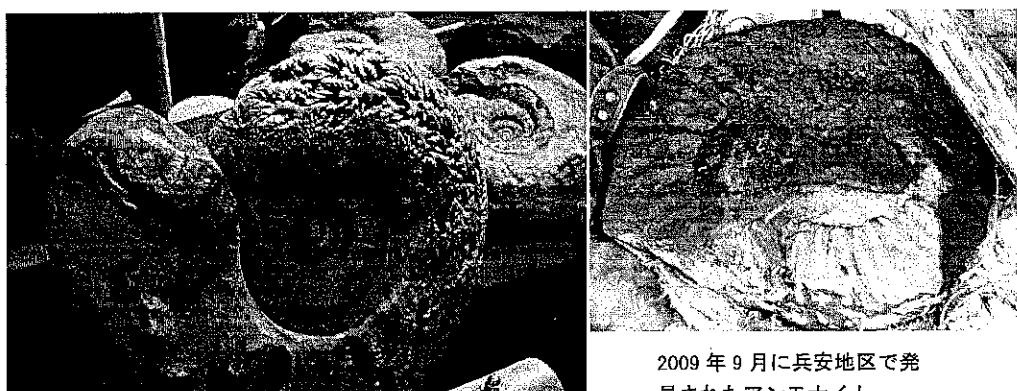
アンモナイトは、軟体動物頭足類のアンモナイト亜綱に属する絶滅した化石動物の総称である。大きな巻貝状の殻を持ったイカに似た存在として化石として発見される。古生代中期のデボン紀（約4億1000万年前から3億6000万年前）から中世代末の白亜紀（約1億年前）まで、3億年もの長い間生息し、特に中生代に繁栄した。アンモナイトが発生した以前の古生代に出出現したオウムガイと似ている。食物連鎖上では、オウムガイの方が上位にあると考えられているが、なぜアンモナイトが絶滅し、オウムガイの子孫が今でも存在するのかはわかっていない。

一般的なアンモナイトの殻（螺環）の外観は、一見しただけでは巻き貝のようである。

巻き貝の構造は、等角螺旋（ベルヌーイ螺旋）呼ばれるが、アンモナイトは螺旋の伸張が平面的特徴を持つ点で、全体に立体化していく巻き貝の殻とは異なる。また、殻の内構造は、多数の隔壁で小部屋に仕切られて連なっており（連室構造）、仕切りのない巻貝とまったく異なる生物であったことがわかる。一番外側は軟体部が納まる大部屋（住房；じゅうぼう）と、それに連なる浮力をつける小部屋（気房；きぼう）で構成されている。住房と気房とは細い体管（連室細管）によってつながり、体液や空気を入れ替えることで、魚の浮き袋のように浮力を調整する器官として働いていたと考えられ、巨大な種であっても広範囲に行動ができたと推測される。現在では中頓別の露頭している中生代の地層からは発見することは難しいが、山中の白亜紀層にはまだまだ大量の化石が眠っている。



ハインリッヒ・ハルダーの筆による、アンモナイトの生態復元想像図。



2009年9月に兵安地区で発見されたアンモナイト。

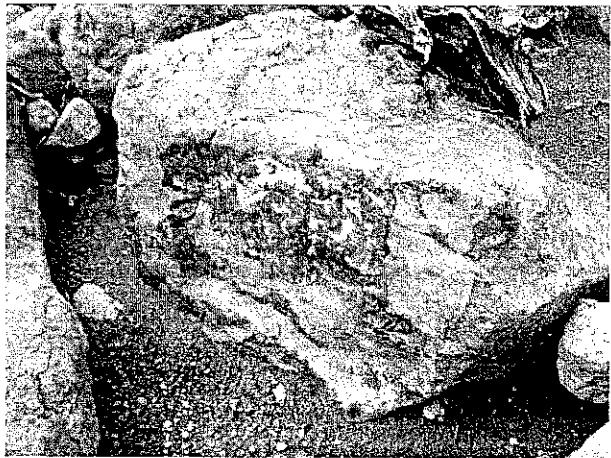
オウムガイの祖先はアンモナイトより先に発生し進化を続ける。しかし、アンモナイトは地球が寒冷化した白亜紀にほんとうに絶滅したのか？ 或いは進化を続けたのだろうか？ アンモナイトから地球環境問題への関心まで興味を広げることができる

◆蛇紋岩

五万分の一の地質図「敏音知」を見ると地図の中央部分に蛇紋岩の地質を示す緑色が多いことにすぐ気付く。実は、この蛇紋岩こそユーラシア大陸と衝突して海底深くに潜りこんだ古太平洋プレートの名残なのである。

この蛇紋岩帯は枝幸町の境界に位置するポロヌプリ山の西部、南部、ペーチャン川の上流部に南北に広がっている。天塩川をはさんだ天塩山地の北部も蛇紋岩帯である。これらは、ユーラシアプレートとぶつかり海底深くもぐり込んだ古太平洋プレートが、上部マントルのカンラン岩が水分を含みつつ高い圧力によって変質し蛇紋岩化し、白亜紀層を突き抜けて地上に押し上げられたものである。神威古潭層と呼ばれるこの蛇紋岩帯は天塩山地北部でもっとも大きな膨らみを持ち、ところによってはその幅が10kmにも及ぶという蛇紋岩帯を作っている。蛇紋岩帯は軽く変形しやすいので、プレートの衝突により地層が

上昇する途中に結晶片岩、玄武岩、斑
レイ岩などの変成岩を包み込んだ岩塊
となって地表に現れる。これを「蛇紋
岩メランジ」といい、それが特徴的に
露出しているのが知駒岳の山頂部分で
ある。

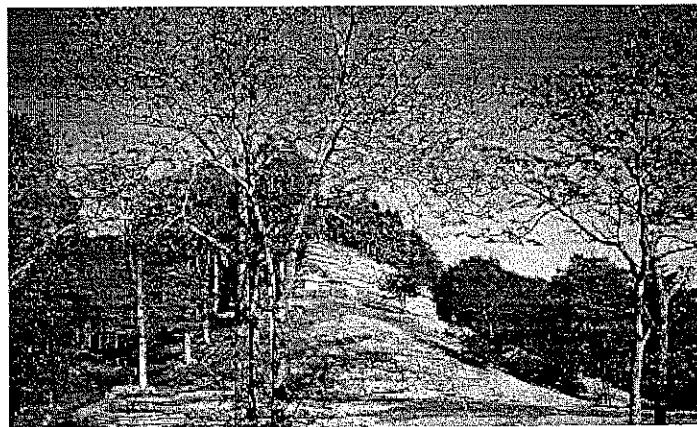


◆中頓別鍾乳洞

◆海の面影を残す地層と鍾乳洞の形成

中頓別鍾乳洞周辺 中頓別鍾乳洞周辺には中頓別層と呼ばれる地層が分布していて、中頓別層の基盤層となっているのは日高累層群（ポロヌプリ層）と上部蝦夷層群（上頓別層）で、ジュラ紀（約1億5千万年～2億年前に相当）以降の地層であることが確認されている。

地層を下位から順に辿ると、ジュラ紀から後期白亜紀（約8850万～8300万年前）の日高累層群と上部蝦夷層群による基盤層、最大層厚60m強である中頓別層を形成する。中新世中期から後期（約1000万年前）の基底礫岩層、細粒砂岩層、中粒砂岩層、石灰岩層およびシルト質砂岩層に分かれている。



さらにその後、陸化して数～20mの層厚となった段丘堆積物などが中頓別層を覆い、現在に至っている。

中頓別層は、岩相、堆積構造、基底面の形状、地層の重なり様式、分布、化石などの状況から、波浪や暴浪の影響を受けない沖浜、波浪や暴浪の影響を受ける外浜、波打ち際の海浜、海浜の内側に形成されるラグーン（潟湖）などの堆積環境で形成されたものであることが推定される。ここに、かつて海の底だった頃の中頓別の面影が残されている。中頓別鍾乳洞は、中頓別層の上位にある石灰岩層及び石灰質砂岩層に形成された。この地層のそのほとんどがフジツボ類の貝殻片の大量堆積により構成されていることや、波によって浸食される「波触棚」があることから、岩石海岸を伴う浅い海域の堆積環境で形成されたものであることがわかる。

なお、中頓別層を形成している石灰岩層は、ほぼ水平に分布しており、この状況は公園内の離れたところに露出している軍艦岩と親子岩の下縁がほぼ同じ高さにあることからも確認できる。

◆特徴

中頓別鍾乳洞の特徴は、大きく次の二つである。

- ・ほかに比べて新しい時代にできた石灰岩中に発達する鍾乳洞である。
- ・貝殻片を非常に高い割合で含む石灰岩中に発達する鍾乳洞である。

日本で見られる鍾乳洞の多くが1億年から2億年、もしくはもっと古い時代に形成された石灰岩の中にできたものだが、中頓別鍾乳洞はそれよりはるかに新しい時代にできた鍾乳洞である。

鍾乳洞が発達できるような大規模な石灰岩帯は形成されにくく、多くの鍾乳洞はサンゴ等の生物遺骸が堆積した後、数億年かけて地上に押し上げられた層にできている。このため、

数百万年前以降に海洋底に生物死骸が堆積しその後押し上げられてできた鍾乳洞は存在しない。これより新しい時代に大規模な石灰岩帯ができる過程として生物死骸などの大量堆積や隆起サンゴ礁などがあるが、とても珍しい。つまり鍾乳洞が発達するほどの大規模な石灰岩帯が新しい時代に形成されたということは稀であり、その中で発達したという点で中頓別鍾乳洞は貴重とされている。



また中頓別鍒乳洞ができた中頓別層石灰岩層は、前述のとおりそのほとんどがフジツボ類などの貝殻片で構成されている。このように石灰分の割合が高い地層ができたとともに珍しく、その中にできた鍒乳洞であるという点で中頓別鍒乳洞の貴重さがある。

現在、第一洞、第三洞、第四洞が公表されているが、すでに発見されたものも含めこのほかに小さな鍒乳洞が多数あると考えられている。最も大きな第一洞（主洞約60m）は公表されている鍒乳洞の中で唯一内部を公開しているが、立体的には3階建ての洞窟になっていて最上段の一部には鍒乳管やつらら石、流れ石といった鍒乳石が形成され、中段から最下段にかけては地下水が石灰岩を（削ったり）溶かしてできた滝や水路、侵食（溶食）模様が見られる。こうした地下の川が作った様々な造形を観察できることも、中頓別鍒乳洞の特徴のひとつとなっている。

◆発見

鍒乳洞が洞窟として発見されたのは、1917年（大正6年7）冬、近くの金鉱の沢で造材作業をしていた馬方が、原木搬出用に各地から集めてきた12、3頭の馬を引き連れて飯場に帰る途中に吹雪にあい、たまたま近くにあった洞窟内に馬を引き連れて一夜の宿に過ごした時と伝えられている。

その後、そのことは忘れかけられるが、1933年（昭和8年）に中頓別郵便局に勤めていた村田義積ら村の7人の青年たちが探検を思い立ち、鍒乳石や石筍（せきじゅん）を確認した。雑誌「科学画報」に掲載された欧米や日本の鍒乳洞の写真を見たことがきっかけだが、この青年たちにより、入口は高さ4m、広さ20坪ほどで上方へ60mほど伸びた第一洞と第二洞が発見されている。

鍒乳洞発見の知らせはあっという間に広まり、翌日から見物客が次々と洞窟を訪れたとされる。役場職員の田農良雄により第三洞が、また市街で雑貨商を営み後に熱烈な鍒乳洞保護者となる作見小平により第四洞が発見される。



専門家の鑑定を仰ぐべきとした村の要請で北大理学部地質学教室の調査が入ったのは、その年の夏だった。同教室の鈴木教授が学生とともに調査した結果、規模こそ小さいものの「新生代第三紀の貝殻化石の石灰層に形成された世界でも珍しい鍾乳洞」であることが判明した。

村は、その貴重な鍾乳洞を保護すべく天然記念物としての指定を申請し、1937年（昭和12年）には道庁からの仮指定を受け、翌年には文部省の脇水鉄五郎天然記念物指定委員長の調査を経て国の天然記念物に指定された。

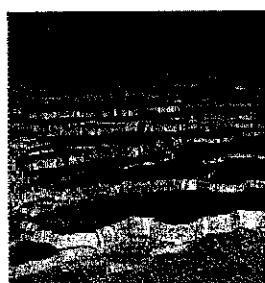
指定を受け村では支洞の入口を金網でふさぎ、主洞については見物を許可制にするなどの対策を取ったが、時すでに遅く、鍾乳石のほとんどは見物客に折られて持ち去られた後だった。発見時の様子は、当時撮影された写真によるしかないが、洞内にあった鍾乳石や石筍が数多く記録されていて、貴重な資料となっている。

なお、国の天然記念物の指定は1956年（昭和31年）に解除され、翌年に北海道指定天然記念物となり現在に至っている。（注2）

◆地形の形成

◆形成物

地表の雨水や地下水に二酸化炭素が含まれていると石灰分を溶かしこむ。しかし、石灰分を含んだ水が、洞穴内で飽和状態になると、方解石として結晶する。この現象によって、天井から一滴ずつ落ちる水滴が飽和状態であると、上から下へと、つらら状に鍾乳石が発達する。また、下に落ちた水滴が同じ場所に重なり続けると、タケノコ状に下から上と石筍として成長する。また、大きく発達したものは石柱、花のようになったものを花状石灰華という。このほか、リムストーン（畳石）、フローストーン（流れ石）、ヘリクタイト、ケイプパール、浮遊カルサイトなどと呼ばれる形成物がある。



フローストーン

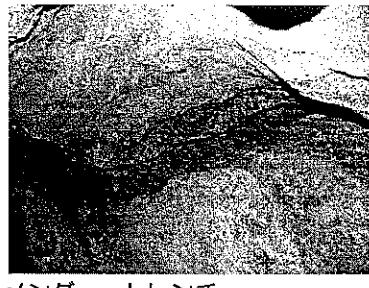
ヘリクタイト

※リムストーン、フローストーン（秋芳洞：山口県）
ヘリクタイト（幻の鍾乳洞：広島県 神石高原町）

一方、石灰岩が溶けると洞穴内や地表には、さまざまな形をした溶食形態が残る。溶食形態には、①水中でできる ②水面の上でできる ③水面付近でできる3つの区分があり、その形態から、今は水流がなくても、かつての様子を知ることができる。中頓別鍾乳洞では次の形態が観察できる。



ポケット
渦巻状の深い水流により洞穴
天井や壁にできた丸いくぼみ。



メンダー・トレーナー
蛇行する水流があったことを示す天井
部に見られる溝状の開口部。



ノッチ
流水による浸食で形成された連続した
くぼみ。かつてそこは水面近かった。



波状溶食痕
かつて浅い水流があったことを示す、
緩やかな波状のくぼみ。

中頓別のシン

ボルである敏音知岳、松音知岳は、地質図をみると石英安山岩に覆われているので、地殻変動による造山運動ではなくマグマの噴出によって形成された火山であることが分かる。白亜紀層の上部にある火山噴出物の年代推定から火山活動は第三紀末から第四紀の始め、今から170万年前後と推測されている。この頃の北海道は、日高山脈の隆起、各地での火山活動が盛んな時代であった。

一方、今に続く第四紀は氷期と間氷期が繰り返されている時代で、地形に大きな影響を与えていた。日高山脈などには氷河地形の名残が山頂域のカールや深い谷間に残っているが、宗谷地方のように標高が低い地帯では、極地の氷床の発達や減少の影響を受け海岸線に変化があった。海平面は100m前後の変化があり、氷期には、現在の水深が50mほどの宗谷海峡は陸地としてサハリンと北海道がつながった時代もあった。現在に最も年代が近いウルム氷期は1万3000年前頃に終わり、再び宗谷海峡が現れた。その後の「縄文海進」時代では、さらに海面が上昇し現在の川の内陸まで侵入していたことがわかっている。現在は、次の大きな氷期が始まる時間の中で生きていることになる。

太陽からの直接的な影響による空間と時間の関係性で大地の歴史を考えると、地球は寒くなつてゆくのである。しかし、大地の歴史を人間的な短時間で計ると、地球温暖化が懸念されている。

2. 気候

気候条件を反映する森林の分布では、広葉樹と針葉樹が混在する針広混交林が広がっている。森の様子から世界の気候区分でいうと、温帯気候の北限でもあり、亜寒帯気候の南限に位置している。

道内主要都市の年平均気温はおよそ6~9°C、年平均降水量は900~1,100mm程度であるが、中頓別の年平均気温は、4.8度、年間総降水量は1,275mmほどであり、より寒くより降水量が多い。

また、北緯45度の各国の平均気温は、ボルドーで12.4度、ポートランドで12.0度と高い。これは地球の自転の影響により、北半球では北からの寒流が陸の西側に沿って南下し（西岸気候）、南からの暖流は東に沿って北上する（東岸気候）現象のためである。中頓別は西岸性の気候で同緯度でも地球上で、雪も多くもっとも寒さが厳しい地帯である。

中頓別で観測された最低気温は、1985年1月24日の-35.9度である。これは日本の観測史上第10位にあたる（2011.2現在）。

＜中頓別の気象に関する記録＞

最高気温	34.1°C (1989年7月27日)
最低気温	-35.9°C (1985年1月24日)
最大積雪深	1m97cm (2009年2月21日)
最大降雪量	13m33cm (1998年-1999年)

＜中頓別の気象＞

	中頓別の気象 平均 (2000-2009)			
	降水量(mm)	日平均(°C)	日最高(°C)	日最低(°C)
1月	98.2	-8.34	-3.33	-15.01
2月	76.9	-8.86	-2.89	-16.95
3月	76	-3.24	1.35	-9.85
4月	55.15	3.32	8	-1.98
5月	76.8	10	16.05	3.63
6月	66.7	14.16	19.5	9.11
7月	124.95	17.04	22.06	12.61
8月	132.65	19.18	24.3	14.64
9月	129.2	14.61	20.63	8.87
10月	154.7	8.26	13.95	2.69
11月	153.1	1.34	5.06	-2.84
12月	114.99	-6.35	-2.09	-12.27

＜中頓別と道内主要都市の気象データの比較：気象庁資料から＞

	平均気温 °C	降水量 mm	降雪量 cm	最大積雪深 cm	日照時間 時間
中頓別	4.8	1,274.8	979	131	1,376.9
稚内市	6.6	1,058.4	697	83	1,490.0
名寄市	5.3	960.5	856	108	1,425.3
旭川市	6.5	1,074.2	756	96	1,621.3
帯広市	6.5	1,007.4	214	62	2,016.0
札幌市	8.5	1,127.6	630	101	1,774.8
函館市	8.8	1,007.8	398	45	1,782.0

※ 数値は1971年から2000年の平均（一部異なります）。

◆気候の変化と地球温暖化

地球温暖化と言われているが、中頓別に昔から住む人は、「昔の方が今よりもっと暖かく、路地でスイカもとれた」と言う。つまり寒冷化しているのではないかが実感だろう。事実、大正から昭和の初めには町内で水田に種もみを直播するコメ作りが行われていた。最低気温こそマイナス20度を下回る日は少なくなったが、夏は肌寒く感じることが多い。これはシベリア高気圧から送られてくる寒気団や寒流の影響が見逃せない。夏になると地球温暖化のため北極圏の氷が溶け、そのため緯度の高い地域では返って、冷たい気団や寒流の影響が強まることが予測される。事実、大西洋の北に浮かぶアイスランドでは、この現象が顕在化している。一方、樹高の高い深い森が伐採されたため、冷たい空気を遮る効果が薄れた、耕地や牧草地が広がり放射冷却現象が強まったという説もあるが、科学的には検証されていない。

中頓別は、地球温暖化現象や自然への人の関わりを考えて行くにも良い素材があると言える。

中頓別の気象データ1：年ごとの値

年	降水量(mm)			気温(°C)			風向・風速(m/s)			日照			雪(寒候年・cm)				
	合計	日最大	1時間	最大		平均		最高		最低		平均風速	最大瞬間風速		風向	降雪の合計(h)	降雪の最大積雪
				10分間	日平均	日最高	日最低	風速	風向	風速	風向		風速	風向			
1976	357	35	13	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
1977	698	50	16	///	-1.8	1	2.3	-7.3	18.1	-23.8	1.3	12	南西	///	237.1	///	///
1978	1304	83	23	///	4.5	9.4	-1.5	31.8	-33.5	1.8	12	西南西	///	2127.6	///	///	
1979	1299	76	20	///	4.8	9.6	-0.7	32.6	-28.2	2	13	西	///	2120.6	///	///	
1980	1113	37	18	///	4.3	9.1	-1	28.6	-31.2	2	14	南西	///	2017.5	///	///	
1981	1551	116	20	///	3.8	8.6	-1.8	30.7	-29	2.1	14	南西	///	1930	///	///	
1982	1150	55	19	///	4.8	10	-1.1	33.2	-35.6	2.1	14	西南西	///	2056.9	///	///	
1983	1154	39	14	///	3.9	8.8	-1.6	29.6	-30.6	2.1	15	西南西	///	1621.6	1101	40	
1984	987	48	12	///	4.3	9.3	-1.5	33	-32.1	2.1	14	西	///	2282.7	949	31	
1985	1240	38	9	///	4.1	9.2	-1.7	32.5	-35.9	1.9	13	南西	///	2107.3	936	35	
1986	1110	48	11	///	3.7	8.7	-2	31.2	-33.2	2	11	西南西	///	741.8	1086	48	
1987	1319	41	11	///	4.6	9.3	-1.1	30.3	-32.2	2.2	14	西南西	///	1287.3	1168	42	
1988	1276	74	13	///	4.4	9.2	-1.1	32.1	-31.2	2	14	南南西	///	1464.5	906	23	
1989	1275	64	17	///	5.9	10.6	0.3	34.1	-24.4	2	14	西南西	///	1463.8	757	23	
1990	1126	63	13	///	6.3	11.1	0.8	30.8	-32.8	2	14	西南西	///	1362.6	725	29	
1991	1125	44	24	///	5.5	10.2	0.1	28.5	-27.2	1.9	11	西	///	1302.6	708	38	
1992	1359	54	15	///	4.8	9.6	-0.7	28.5	-28	1.7	11	南西	///	1188.8	950	39	
1993	1200	59	18	///	4.8	9.3	-0.3	28.1	-23.5	1.8	10	西南西	///	1235.6	863	35	
1994	1299	53	18	///	5.6	10.4	0.2	31.7	-29.3	2.2	12	西南西	///	1180.1	1101	36	
1995	1350	41	18	///	5.6	10.5	0.2	30.5	-28.3	2.1	13	北北東	///	1284.1	1289	48	
1996	1310	87	23	///	4.5	9.2	-0.6	30.1	-30.3	2	10	南西	///	1188	937	45	
1997	1321	77	26	///	5.4	10	0.2	30.3	-23.7	2.1	12	南西	///	1142.3	1247	43	
1998	1296	82	25	///	5.1	10	-0.5	28	-30.5	2.1	14	北北東	///	1208.4	634	32	
1999	1694	63	42	///	5.5	10.1	0	32.6	-28.6	2	11	南西	///	1151.8	1333	47	
2000	1493	100	31	///	4.8	9.6	-0.4	33.3	-30.2	1.7	11	北	///	1106.6	986	38	
2001	1495	105	18	///	4.2	9	-1.1	29.9	-30.7	1.9	10	西南西	///	1220.2	885	46	
2002	1353	59	21	///	5.2	10	-0.4	30.9	-26.9	1.9	11	南西	///	1138.9	808	61	
2003	1054	58	20	///	4.8	10.4	-1.3	28.8	-29.4	1.9	12	北北東	///	1411.3	701	37	
2004	1316	55	30	///	5.8	11	-0.1	31.2	-27	2	14	北北東	///	1306	1027	69	
2005	1231	66	20	///	5	10.2	-0.9	32	-30.6	1.9	13	北北東	///	1337.3	1032	61	
2006	1531	101	22	///	5.2	10.2	-0.4	30.8	-30.6	1.9	13	北北東	///	1258.2	1296	42	
2007	1042	73	21	///	5	10.3	-1	31.1	-28	1.8	13	北北東	///	1341.9	1004	77	
2008	929	67.5	23	2.0	5.0	10.5	-1.0	32.1	-30.8	1.8	12	北北東	16.3	1353.0	801	36	
2009	1254.5	66	19.5	7	5.5	10.7	-0.3	30.9	-26.3	2	11.5	南西	21.5	1309	839	35	
2010	1614.5	76	32.5	11	6.1	11.1	0.8	32.5	-25.9	2.1	15.3	南西	26.2	1264.6	851	33	

2010年

月	合計	降水量(mm)			気温(°C)			風向・風速(m/s)			日照時間(h)	降雪の合計(cm)	降雪の最大積雪(cm)					
		日最大	1時間	10分間	平均	日平均	日最高	日最低	平均風速	最高風速	風向	風速	風向					
1	109.5	19.5	3	1	-6	-12.1	5.9	-22.4	2.3	10.4	北北東	風速	風向	37	189	32	113	
2	106	18	5.5	1.5	-8.2	-2.9	-15.6	9.7	-25.9(1.5)	9.0	西南西	15.3	20.6	北北東	47.2	162	21	158
3	96	19	4	1	-3.8	0.8	-10.3	5.8	-24.6	2.5	15.3	南西	26.2	西南西	93.1	181	33	154
4	93.5	25	4.5	1.5	2.2	6.5	-2.7	12.7	-11.1	2.7	12.8	西南西	24.2	西南西	120.8	41	13	115
5	56	20.5	6	2.5	8	13.7	2.8	24.2	-3.3	2.7	10.1	西南西	16.7	西南西	168.9	0	0	0
6	28.5	14.5	4	3	16.9	23.4	11	29.7	2.5	2.2	8.5	南西	16.5	南西	211.3	0	0	0
7	33.5	76	29.5	11	18.9	23.2	15.4	28	10.7	1.8	6.8	北北東	12.6	南西	58.7	0	0	0
8	222	68	32.5	8	22.1	27	17.5	32.5	12.7	2	11.2	南西	20.3	南西	143.2	0	0	0
9	162	61	28	10	16.1	22.3	10.3	29	-0.3	1.9	11.2	南西	26	南西	177	0	0	0
10	133.5	26.5	6	4	8.3	-14.7	3.1	22.1	-2.7	1.4	9.2	北北東	16.5	北	130.8	1	1	1
11	154	29.5	6	2.5	2.1	6.3	-2.2	14.5	-7.5	1.8	8.6	南南西	16.9	南南西	47.3	48	18	25
12	122	21.5	3.5	2	-3	0.2	-7.7	9.8	-16.8(2.1)	12.5	西南西	22.9	西南西	29.3	187	36	71	

2009年

月	合計	降水量(mm)			気温(°C)			風向・風速(m/s)			日照時間(h)	降雪の合計(cm)	降雪の最大積雪(cm)					
		日最大	1時間	10分間	平均	日平均	日最高	日最低	平均風速	最高風速	風向	風速	風向					
1	80	10	3	1	-5.1	-1.1	-10.7	7.6	-24	1.9	10.6	北	19	北東	44.1	163	25	100
2	85	17	2.5	1	-8	-2.3	-17.2	1.4	-26.3	1.8	11	北	19	北北東	66	208	27	197
3	87.5	14	4	1	-1.8	2.8	-8.8	8.8	-24.6	2.5	10.6	西南西	21	西南西	86.3	135	21	189
4	23.5	10.5	3	1.5	4.1	9.1	-2.2	18.8	-10.5	2.8	9.7	西南西	18.7	西南西	217	10	2	116
5	84.5	22.5	4.5	1.5	11.6	18.1	4.2	27.5	-2.6	3.1	11.5	南西	21.5	南西	204.9	0	0	0
6	95.5	19	8	2	13.8	18.7	9.6	28.3	5.7	1.9	10	南西	17.9	南西	96.7	0	0	0
7	170	25.5	12	4.5	15.4	19.9	11.9	27.6	8	1.8	7.1	南西	12.1	南西	58.2	0	0	0
8	77	17	10.5	3	18.5	24.2	14.2	30.9	8	1.7	8.9	南西	17.5	南西	151.4	0	0	0
9	91	15.5	7	7	14.2	21.1	7.9	26.8	0.8	1.4	7.3	西南西	12.9	西南西	164.7	0	0	0
10	177.5	37	19.5	4.5	8.4	15	2.3	21.6	-2.6	1.8	9.4	西帝西	17	南西	105.3	2	2	2
11	184	66	18	6	1	4.6	-2.9	18.5	-10.3	1.7	8.6	北北東	15.1	北東	50	87	23	29
12	99	15	3.5	1	-6.1	-1.5	-12	3.3	-24.8	1.4	7.2	南西	14.4	東	64.4	189	25	71

2008年

月	合計	降水量(mm)			気温(°C)			風向・風速(m/s)			日照時間(h)	降雪の合計(cm)	降雪の最大積雪(cm)						
		日最大	1時間	10分間	平均	日平均	日最高	日最低	平均風速	最高風速	風向	風速	風向						
1	87	12	4	///	-10.6	5.3	-17.8	-0.9	-30.2	1.3	9	北北東	///	///	42.7	218	26	87	
2	51	7	2	///	-10	-3.1	-18.8	2.5	-30.8	1.7	12	北北東	///	///	84.8	199	30	107	
3	21.5	5	2	///	-1.1	3.8	-6.4	10.8	-19.4	2	10	南西	///	///	149	83	15	97	
4	12	4.5	1	///	4.9	-12.1	-1.8	24.2	-9.8	2	8	北北東	///	///	175.7	13	3	26	
5	88.5	23	17.5	4	///	8.7	14.9	2.5	26	-6.3	2.3	11	南西	///	///	135.1	0	0	0
6	40.5	14.5	4	///	12.9	19.2	6.8	27.4	1.8	2.1	11	南西	///	///	173.7	///	///	///	
7	149.5	67.5	23	///	18.7	23.7	14.2	32.1	4.4	1.6	6	北北東	///	///	107.8	///	///	///	
8	40.5	9	7	///	18.1	22.8	13.3	28.7	4.1	1.6	8	南西	///	///	124.6	///	///	///	
9	81	28	15	///	15	21.7	8.3	27	1.1	1.7	8	西南西	///	///	163.8	///	///	///	
10	97.5	23.5	7.5	0.0	9.3	15.6	3.5	[19.8]	-0.9	1.7	9	南西	8.4	南西	102.6	0	0	0	
11	30.0	28.0	6.5	0.5	4.6	-4.1	13.8	15.2	1.6	8.5	15.4	西南西	15.4	西南西	92.0	20	22	22	
12	130	15.5	3.5	1	-2.4	1.1	-6.9	9.2	-16.5	1.9	8.1	北北東	16.3	西南西	46.2	226	35	70	

3. 自然

北緯45度にある中頓別町では、本州では標高が高い場所に生息する植物が平地で見られることがある。中頓別の人里であっても本州に比べると自然の風景は大きく異なっている。中頓別でみられる特徴的な植物について列記する。

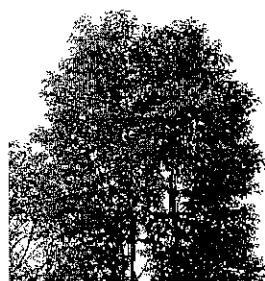
◆針広混交林

開拓時代に巨木は伐採され材木として利用されたので、中頓別で見られる樹林は伐採後に再生した二次林や三次林である。しかし、伐採された後に同一種だけが植林された土地は森全体からみると少ない。針葉樹と広葉樹が混在した森（針広混交林）が広がっているので、一見して樹種が多く豊かな森に見える。また、緯度が高いために、標高100mに達しない平地部でもシラカンバやダケカンバが普通にみられる。

◆河畔から

山中の樹木

中頓別の主道路は川に沿っているので、車窓からはヤナギやハンノキの林、ヤチダモ、ドロノキ、ハルニレ（アカダモ）が見られ、山側にはオニグルミ、オヒョウニレ、シナ、ミズナラ、キハダ（シコロ）、イタヤカエデ、ホウノキ、ナナカマド等の広葉樹、トドマツやエゾマツは密集している場所は植林であるが、広葉樹との混在地が広がっている。



ヤチダモ



ドロノキ



オニグルミ



ナナカマド



ミズナラ



オヒョウニレ

◆アカエゾマツ

知駒岳一帯から頓別川の源流のペンケ、パンケの山麓までアカエゾマツの純林が広がっている。林野庁の植物群落保護地区に指定されており、その面積は3,000haに及ぶ。材

木として切り出された「造材作業」や度重なる山火事のため、また土質や北の厳しい自然環境の影響を受け、現在では巨木はあまり見かけないが、貴重な森を形成している。この地域は、マグネシウムやニッケルなど重金属を含んだ蛇紋岩地帯であり、一般的には植物の生育には適していない。また、粘土や砂れきが多く含まれる土壌は水はけが悪く、他の樹木の侵入を難しくしているが、アカエゾマツはこの厳しい環境で生息する特徴を持っている。



◆テシオコザクラ

蛇紋岩地帯であるがゆえに生息する野の花がテシオコザクラである。北海道各地に植物の調査を行った日本の代表的な植物分類地理学者、北海道大学の館脇操博士(1988~1976)が発見し、サクラソウの新種と特定した。草丈10~20cm長い花茎の先端に2、3輪の白い花をつけ5月から6月に開花する北海道固有種。

北海道の針広混交林を森林生態学において提唱した。英名をタテワキアという。



◆チシマアザミ

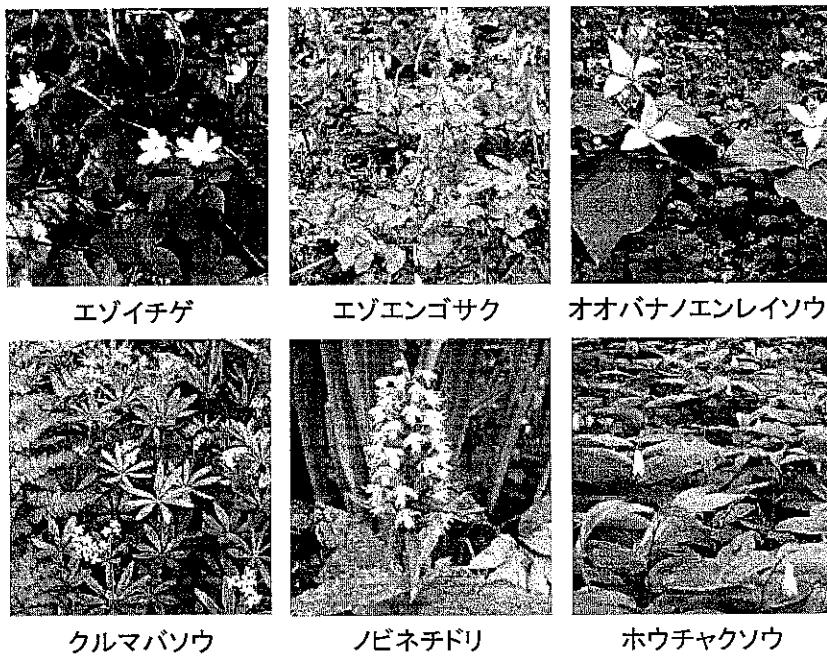
北の植物には背丈や葉が大きくなるものがある。中でもチシマアザミは特徴的である。北海道北部には普通に見られるが、中頓別には背丈が3mを超えるものが普通に見られる。これは、高緯度に位置するため低い位置の太陽の光を長い時間とらえるために背丈を伸ばしたものと考えられる。他にも孟宗竹を思わせるような太い茎と高い背丈をもち大きな花をつけたエゾニュウもある。



◆春から初夏の

野の花

中頓別鍾乳洞の一帯の自然散策路は下草が刈られ低灌木が少ない林床（りんしょう）があり、野の花の観察が誰でも気軽にできる。残雪が多い年には、春と初夏が同時に訪れるようなことがある。6月初旬ごろに、雪が消えると咲くエゾイチゲやエゾエンゴサクと共に初夏を感じさせるエンレイソウ、クルマバソウなどが一緒に咲いている風景に出合うことがある。

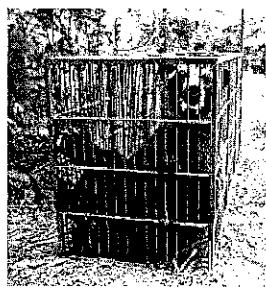


◆動物

エゾシカ、ヒグマ、キタキツネ、エゾタヌキ、エゾリス、エゾウサギ、エゾモモンガなど、他の北海道地域と同様な哺乳類が確認されている。



エゾシカ



ヒグマ



キタキツネ



エゾタヌキ



エゾリス



エゾウサギ

◆鳥類

豊かな森には鳥類も多く生息している。ウグイス、カッコウ、センダイムシクイ、エゾムシクイ、コルリ、キビタキ、ヤブサメ、ヒガラ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、アオジ、マヒワ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ツツドリ、エゾライチョウ、トビ、ノスリなど北海道に分布する鳥類全般が観察できる。珍しい鳥ではギンザンマシコや、知駒山麓や敏音知ではクマゲラも生息している。厳しい冬でも野鳥が観察できる。



ヒガラ



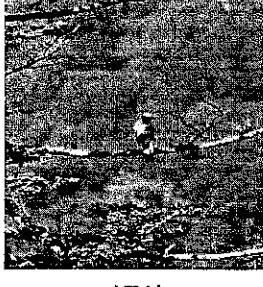
アオジ



コゲラ



アカゲラ



ノスリ



クマゲラ

4. 人口・歴史・産業・周辺とのつながり

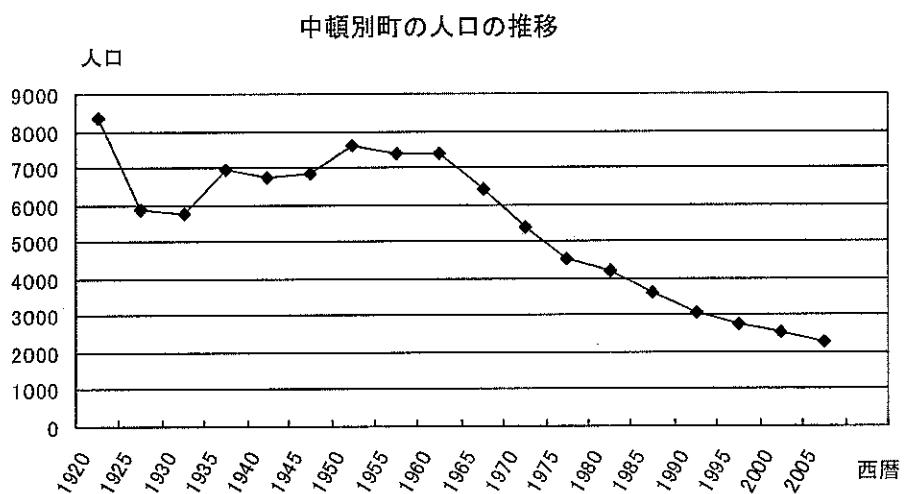
◆人 口

中頓別町の歴史については第3章で詳しく述べるが、開拓から戦後期まで農林業で栄えた後、高度経済成長期以降は急速な人口減を続けている。

<人口の推移：国勢調査>

年	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980
人口	8,373	5,773	6,724	7,592	7,375	5,395	4,203

年	1985	1990	1995	2000	2005	2010
人口	3,610	3,056	2,754	2,518	2,289	



中頓別町の現在の人口密度は、1 Km²当たり約5.1人となっている。日本の平均は338人、北海道70.4人、宗谷支庁管内で17.4人と比べてもはるかに低い。それに対して東京23区は14,148.5人、札幌市街地（南区を除く）は3,762.2人である。周辺町村の同じような状況なので、日本で最も人口密度が低い地域と言えるかもしれない。

<人口密度の比較>

	面積 (Km ²)	人口 (人)	人口密度
全国	377,923.14	127,767,994	338.08
北海道	83,456.20	5,541,593	66.40
札幌市	1,121.12	1,899,703	1,688.00
宗谷館内	4050.82	70,675	17.45
中頓別	398.55	2,019	5.07

<近隣で中頓別より人口密度の低い町村との比較>

	面積 (Km ²)	人口 (人)	人口密度
幌加内町	767.03	1,772	2.31
音威子府村	275.64	889	3.23
中川町	594.87	1,887	3.17
幌延町	574.27	2,620	4.56
猿払村	590.00	2,823	4.78
中頓別	398.55	2,019	5.07

※ 北海道内のデータは、平成21年12月末現在。全国は平成17年の国勢調査の数値。

◆行政区の歴史

<枝幸郡時代>

1869年（明治2年）7月に明治政府は開拓使を設置、蝦夷を北海道と改めた。頓別原野は北見国枝幸郡と位置付けられ金沢藩の分領となり、翌年には開拓使の直轄となった。

1878年11月25日、開拓使は府県布達によって、枝幸郡に枝幸村、頓別村、歌登村、札文村の四村を置くことを布告した。しかし、郡役所が置かれたのは枝幸村だけであり、1880年1月1日の枝幸郡戸数表においても、頓別村はわずか四戸17名だけで、もともとこの地に住んでいたアイヌ13名と和人（寄留）4人に過ぎないと推測されている。頓別原野はまだまだ「村落未置」であった。

1897年（明治30年）「北海道国有未開地処分法」が制定され、それを受け翌年から頓別原野の植民区画が始まり、開拓移住者の促進を図った。これは、開墾用地は一人500町歩、牧畜用地は833町歩、植樹等に用いる土地は無償貸し付けとし、期限を設け開墾させ、成功すれば無償で付与するものであった。

区画は頓別川河口付近を基点とし、川筋に沿って調査、測量され、1900年までに1線から39線までの区画策定が行われた。25線が現在の弥生、寿地区、34から36線が中頓別市街地である。

1903年（明治36年）に樺原民之助が頓別原野36線に植民地区画の貸付許可を得て開拓に従事し、1907年頃より入植者が続くなつた。1909年（明治42年）4月に頓別原野は枝幸村大字頓別村に編入され、同10月に初代部落部長として道徳安二が任命された。この年を中頓別町の行政史の始まりとしている。

<頓別村、そして中頓別村、中頓別町へ>

1916年（大正5年）には頓別村から大字が取れ枝幸村から分村され、現在の中頓別は頓別村に編入された。さらに1921年に頓別村から分村し中頓別村が誕生し、1949年（昭和24年）に北海道告示819号にて町制に移行し、現在の中頓別町に至っている。

<行政史年表>

- 1869年（明治 2年） 北海道開拓使設置、北見国枝幸郡設置。
- 1872年（ 5年） 開拓使、宗谷支庁を置き枝幸出張所を開設。
- 1877年（ 10年） 枝幸郡に頓別村、枝幸村、礼文村が設置。
- 1882年（ 15年） 開拓使廃止、枝幸郡は札幌県に編入。
- 1886年（ 19年） 札幌県が廃止され北海道庁が発足。
- 1891年（ 24年） 枝幸外三村戸長役場（枝幸、頓別、歌登、礼文を管轄）
- 1909年（ 42年） 枝幸村に二級町村制が施行。枝幸村大字頓別村に編入される。
この年を中頓別町の開基とした。道徳安二が初代部落部長（枝幸村第10部長）に任命される。
- 1916年（大正 5年） 枝幸村から頓別村が分村。
- 1921年（ 10年） 頓別村から分村、中頓別村が誕生。二級町村制を施行。
- 1949年（昭和24年） 町制施行、中頓別町となる。

◆町名の由来

頓別の名称もアイヌ語が由来であり、トンベツは「ト・ウン・ペッニ沼に・入る・川」である。河口付近には、現在でもクッチャロ湖があるが、かつては広大な湿地帯が広がっていた。頓別川の川筋に沿って、「中」「小」「浜」などの日本語表記を付記し、中流域を中頓別としている。アイヌ語の地名は地形の様子を表したものが多い。町内の各地の地名は、次のように訳されると考えられている。

<主な地名とアイヌ語の意味>

- 頓別・とんべつ（ト・ウン・ペッ）＝湖（沼）・の（に入る）・川
知駒・しりこま（シュルク・オマ）＝ トリカブトが・ある
兵知安・ペーちゃん（ペンケ・イチャン・ナイ）＝ 上にある・産卵場所の・川
敏音知・びんねしり（ピン・ネシリキヌプリ）＝ 男の・山
松音知・まつねしり（マツウ・ネシリキヌプリ）＝ 女の・山
ボロヌプリ岳・（ボロ・ヌプリ）＝大きな・山
ベンケ山・（ベンケ）＝上にある、～の上
パンケ山・（パンケ）＝下にある、～の下
誉平・ほんびら（ポン・ピラ・ナイ）＝ 小さな・崖がある・川
枝幸・えさし（エ・サ・ウシ・イ）＝頭が・浜・についている・所（岬）
宗谷・そうや（ソ・ヤ）＝岩・岸
※ 「宗谷」は、珊瑚内の海中にあったソウヤ岩という大岩から名付けられた。

◆産業

中頓別町の産業史は砂金掘りではじまるが、やがてゴールドラッシュが過ぎ去り、農林業が栄えて町の経済をささえることになる。農業は厳しい環境の中で冷水害との格闘の末、酪農へと転換し今日に至っている。林業は、戦前戦後にかけて隆盛をみるが、木材の海外からの輸入と価格低迷で衰退したまま、復活する機会を失っている。畑作時代は澱粉工場、酪農になってからは乳業工場があったが撤退、最多で8つあった木材工場も現在は1社のみとなっている。商業も農林業が栄え多くの官公署もあった時代には栄えたが、他産業の低迷、それに伴う人口の減少の影響をまともに受けており、地域の産業全体の衰退が著しい。

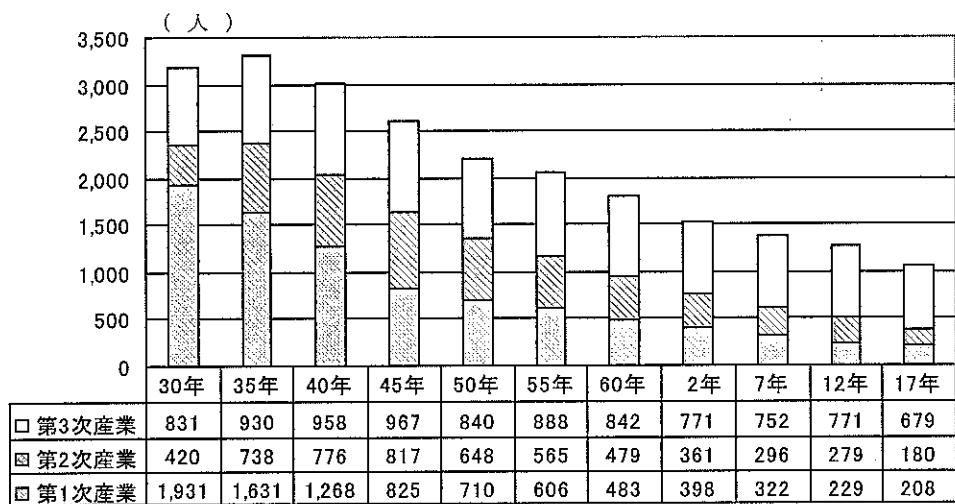
就業者数の推移を見ると、昭和35年に3,300人を超えていたが、平成17年には、1,069人にまで減少し当時の約3分の1になっている。特に基幹産業の農林業が主な第1次産業の減少が大きくて8分の1に、第2次産業も昭和45年のピークと比較すると5分の1近くにまで減少したことになる。第3次産業も同じく昭和45年のピークと比べて約3割減少している。

＜職業別就業者数の推移：国勢調査＞

	昭和							平成			
	30年	35年	40年	45年	50年	55年	60年	2年	7年	12年	17年
第1次	1,931	1,631	1,268	825	710	606	483	398	322	229	208
農業	1,749	1,288	844	616	472	364	317	294	228	186	180
林業	182	351	424	209	237	241	166	103	94	43	26
漁水					1	1		1			2
第2次	420	738	776	817	648	565	479	361	296	279	180
鉱業	15	18	41	11	6	9	16	3	9	5	3
建設業	119	324	362	409	283	252	172	205	175	172	102
製造業	286	396	373	397	359	304	291	153	112	102	75
第3次	831	930	958	967	840	888	842	771	752	771	679
卸小売	244	273	298	278	238	247	205	184	168	146	102
金保不	35	24	22	28	21	25	22	18	15	14	7
運・通	197	235	202	142	93	90	71	40	31	38	22
電ガ水		17	19	24	15	9	6	3	3	5	5
サービス	292	312	327	392	383	426	443	415	431	470	461
公務	63	69	90	103	90	91	95	111	104	98	82
						1	1				
総数	3,182	3,307	3,002	2,609	2,198	2,060	1,805	1,530	1,370	1,279	1,069

※ 「漁水養」は漁業・水産養殖業、「金保不」は金融・保険・不動産業、「運・通」は運輸・通信業、「電ガ水」は電気・ガス・水道業の略。

産業分類別従業者数の推移



※ 数値は国勢調査による。

◆周辺の町村

中頓別町は頓別川水系の分水嶺に囲まれた内陸地である。頓別川の河口部に浜頓別町、そこから時計回りに枝幸町、音威子府村、中川町、幌延町の5つの町村に囲まれている。行政的には、北海道宗谷総合振興局の管内に属している。

なお、宗谷管内の人口は73,295人だが、面積は4,625.09km²で都道府県面積で31位の京都府（人口2,630,802人）を上回る（2009年12月31日現在）。



<宗谷管内の地勢の概要>

宗谷総合振興局管内は、北海道の最北に位置し、東部はオホーツク海、西部は日本海、南部は上川・留萌及び網走地方に接し、北部は宗谷海峡を経てサハリン(旧樺太)を望み、さらに日本海には利尻・礼文島があります。

総面積は、4,625.09²で、全道総面積の約5.5%を占め、ほぼ京都府の面積に匹敵しており、東西148.2km、南北100kmに及んでいます。

管内は、南北にまたがる低山性の北見山地が支庁の境界となってオホーツク海にのび、東部は平坦な臨海地であり、西部は広大なサロベツ原野を経て日本海に接し、南部は徳志別・幌別・頓別の各河川の流域が平野を形成して、オホーツク海に続いています。また、利尻島は円形で中央に成層火山の利尻山(海拔1,721m)があり、礼文島は南北に細長い丘陵地帯となっています。

(宗谷総合振興局のホームページ)

<宗谷管内の面積及び人口(2009年12月31日現在)>

	面積	人口		面積	人口
稚内市	760.85	39,232	豊富町	520.67	4,540
猿払村	590.00	2,823	利尻町	76.49	3,078
浜頓別町	401.56	4,174	利尻富士町	105.69	2,537
中頓別町	395.55	2,019	礼文町	81.33	2,959
枝幸町	1115.68	9,919	幌延町	574.27	2,620
合計				4,625.09	73,295

◆歴史的なつながり

和人による開拓期以前の中頓別周辺には、天塩川沿いやオホーツク海側にはアイヌの小さな集落があったことが記録によって分かっている。内陸地である中頓別はアイヌにとっては狩猟地であっただろうが、定住地があったかは定かではない。しかし、音威子府村の咲来(サックル)という地名は、「夏の道」という意味があり、天塩とオホーツクのアイヌが交流をしていたことをうかがわせる。また、アイヌを道案内に現中川町側からパンケ山とペンケ山の間を通り敏音知の豊平に降り立った開拓民の記録があるので、山中に狩猟を使っていた小道が古くからあったと推察される。この道はその後ポンピラ(誉平)街道と呼ばれ、通行する人が増えるに連れて峠に茶店もできたという。一方、頓別川もかつては水量も多く水路として利用されていた。春先の増水期には河口から100Kmの小頓別付近まで丸木舟の航行が可能だった。

江戸時代の貞享年間(1684-87)に松前藩が枝幸に「宗谷場所」を開設しアイヌとの交易を始めて以来、枝幸が商業の中心地であった。砂金採りに沸いた1898年(明治30年)頃、人々は枝幸からポロヌブリ岳の北側を回り込み頓別川の支流ペーチャン川に入った。頓別原野の開拓が始まった当初も頓別川沿いを往来するのではなく、このルートを使っていった記録がある。開拓の植民地区画が進み入植者が増えるに連れて水路を利用するようになった。

◆交通的なつながり



北海道内主要都市からの距離

稚内から……	112km	車 約2時間
旭川から……	189km	車 約3時間
札幌から……	316km	車 約5時間

JR (音威子府駅下車)

稚内・札幌間……1日3往復

札幌一音威子府 およそ3時間

バス

中頓別・旭川間……1日1往復

3時間25分 (旭川一中頓別) 2時間40分 (旭川一音威子府)

旭川→鬼志別／1往復(旭川一音威子府一小頓別一中頓別一浜頓別一鬼志別)

旭川→枝幸 ／2往復 (旭川一名寄一音威子府一小頓別一歌登一枝幸)

空路

稚内・丘珠間 ……1日1往復 (50分)

稚内・千歳間 ……1日1往復 (60分)

稚内・東京間 ……1日1往復 (1時間45分)

5. 暮らしと環境

◆水道

中頓別町の簡易水道は、昭和32年に創設の認可を受け、翌年12月に通水を開始しています。平成6年にそれまであった3つの簡易水道、5つの営農用水を統合し全町域をひとつの中頓別川支流角田の沢川とする認可を受け、平成11年に統合事業を完了しました。

水源は二級河川頓別川水系頓別川支流平賀内川で、周囲は国有林となっており、水源涵養林に指定されています。

処理方式	オキシデーションディッチ法
処理能力水量（晴天時一日最大）	1,230m ³ /日
放流先	頓別川水系頓別川支流角田の沢川
汚泥処理方法	濃縮→脱水
汚泥処分方法	産業廃棄物、綠農地利用

<平成21年度水道事業の概要>

行政区域内人口	2,016人
計画給水人口	4,320人
現在給水人口	2,016人
導水管延長	1,645m
送水管延長	9,334m
配水管延長	82,283m
浄水場設置数	1箇所
配水池設置数	4池
配水能力	2,688m ³ /日
年間総配水量	568,588m ³
一日最大配水量	1,708m ³ /日

◆下水道

中頓別町の下水道は、市街地の生活環境の改善と汚水処理による頓別川などの公共用水域の水質保全の必要性が生じてきましたため、平成5年に市街地75.0haの認可を受け、事業を着手し、今日に至っています。

<平成21年度下水道事業の概要>

行政区域人口	2,016人
市街地人口	1,571人
全体計画人口	2,500人
現在排水区域内人口	1,546人

現在処理区域内人口	1, 546人
現在水洗便所設置済人口	1, 265人
行政区域面積	39, 855m ²
終末処理場数	1箇所(処理方法=高級処理)
計画処理能力	1, 230m ³ /日
現在晴天時平均処理水量	372m ³ /日
年間総処理水量	153, 066m ³
年間総汚泥処理量	1, 471m ³

<平成22年度下水道実施計画：平成22年3月31日現在>

住民基本台帳人口	2, 013人
下水道区域外人口	443人
合併浄化槽人口	205人
単独浄化槽人口	20人
汲み取り人口	218人
下水道区域内人口	1, 570人
下水道供用開始区域人口	1, 545人
水洗化済人口	1, 265人
浄化槽人口	15人
汲み取り人口	265人
供用区域人口(汲み取り)	25人

◆廃棄物処理

中頓別町の廃棄物は、リサイクルされる資源ごみを除き、可燃性の一般廃棄物と生ごみは南宗谷衛生施設組合（中頓別町のほか猿払村、浜頓別町、枝幸町と3町1村で設置）で処理され、その他は一般廃棄物埋立処理施設で埋立処分されています。

<廃棄物処理施設（南宗谷クリーンセンター）>

一日16時間稼働で22トン処理できる准連続焼却式焼却炉となっており、高温燃焼で熱灼減量10%以下に完全燃焼され、ダイオキシン等の有害物質も適正に処理する施設となっています。

(焼却施設の概要)

処理能力	22t/16h (11t/16h×2炉)
粗大ごみ	7t/5h
焼却残渣	埋立処分
補習灰(ダスト)	ダスト固化設備で薬剤処理(キレート)。重金属の溶出防止
排ガス排出基準値	ばいじん濃度 0.02g/m ³ (NTP)

硫黄酸化物 (SO _x)	100 ppm (O ₂ 12%換算)
窒素酸化物 (NO _x)	200 ppm (O ₂ 12%換算)
塩化水素 (HC1)	150 ppm (O ₂ 12%換算)
一酸化炭素 (CO)	50 ppm (4h平均値) (O ₂ 12%換算)
ダイオキシン類	5 ng-TEQ/m ³ (NTP)

<汚泥再生処理施設（南宗谷クリーンセンター）>

南宗谷衛生施設組合では、汚泥再生処理施設を設置し、し尿、浄化槽汚泥、生ごみ、下水道汚泥を処理しています。し尿等はメタン発酵させて発生するガスを発電に活かすとともに、発酵後に精製される汚泥等は堆肥化して活用しています。

（施設の概要）

処理能力	31 k l／日 (し尿11 k l、浄化槽汚泥4 k l、生ごみ10 t、下水道汚泥6 m ³)
処理方式	高速メタン発酵+膜分離高負荷脱窒素処理方式
処理水質	PH 5.8~8.6
	BOD 10mg/l以下
	COD 20mg/l以下
	SS 10mg/l以下
	T-N 10mg/l以下
	T-P 1mg/l以下
色戸	20度以下
大腸菌群数	3000個/m l以下

<一般廃棄物埋立処理施設>

中頓別町の一般廃棄物でリサイクルされる資源ごみ及び南宗谷衛生施設で共同処理される可燃ごみ、生ごみ等のほかは、弥生地区に設置した一般廃棄物埋立処理施設で埋立処理されています。

（施設の概要）

埋立面積	4,600m ²
埋立容量	13,000m ³
埋立構造	準好気性埋立
遮水方式	表面遮水シート (1.5mm×2層)
浸出水処理施設	処理方式 生物処理(回転円板)+凝集沈殿
	処理能力 15m ³ /日
	PH 5.8~8.6
	BOD 20mg/l以下
	SS 60mg/l以下
	大腸菌群数 3000個/m l以下

<平成21年度廃棄物処理の状況>

(処理量)

可燃ごみ	377, 120 kg
不燃ごみ	117, 070 kg
生ごみ	118, 930 kg
下水道汚泥	128, 930 kg
し尿	604, 770 kg
リサイクルごみ	152, 360 kg (※直接搬入及び収集ごみの合計)

(リサイクルごみの種類別処理(引渡)量)

ガラスびん	17, 740 kg
ペットボトル	5, 890 kg
古紙	51, 670 kg
段ボール	51, 130 kg
紙パック	899 kg
鉄缶	8, 150 kg
アルミ缶	2, 902 kg
その他(鉄くず)	30, 450 kg
白色トレイ	2, 137 kg
廃食用油	1, 240 kg

※ 包装容器プラスチック、電池、蛍光灯管は引渡なし。

◆家畜排泄物の処理

中頓別町における一日当たりの家畜排泄物の発生量(平成21年度) 単位: kg

畜種		頭数	糞	尿	合計	
乳用牛	搾乳	2, 312	105, 196.0	30, 980.8	136, 176.8	kg
	育成	1, 102	19, 725.0	7, 383.4	27. 109. 2	kg
	小計	3, 414	124, 921.8	38, 364.2	163, 286.0	kg
肉用牛		190	3, 800.0	1, 273.0	5, 073.0	kg
合計			128, 721.8	39, 637.2	168, 359.0	kg
年間量			46, 448.5	14, 467.6	61, 341.0	t